

小さな巨人の 学生時代。



目次。

- Who is 小さな巨人？
- インターネットと私
- ダンスと私
- エンターテナー＝私
- 終わりに

☑ Who is 小さな巨人?

坂本 千尋 (21)

またの名を「小さな巨人」という。

身長は153センチと小さいが人を楽しませるためには努力を惜しまない（体を張る）ためそう呼ばれている。

中には意志が強い、軸がぶれないなどといった理由もあがっている。

趣味・・・旅行/ストリートダンス

特技・・・ストリートダンス/誰とでも打ち解けることができる

モットー・・・常に面白く

今年の目標・・・思考転換



☑ インターネットと私

学生時代...遡って小学生の頃、インターネットという通信ツールに出会いました。

当時まだダイヤルアップが主流で、インターネットをつなぐ時間が長ければ長いほどお金がかかるにも関わらず（親に怒られながら）常に画面と睨めっこ状態でした。こんなにわたしがインターネットが好きになった理由としてあげられるのは「自分発信でいろんなものを発信できる」ということでした。小学生の頭でも簡単に使いこなせることがとても楽しかったのです。とにかく楽しかった記憶しかありません。

もともと絵が大好きだったのでお絵かき掲示板で自分の絵を投稿したり、HP素材を提供するサイトやブログを運営したりしていました。年代、性別、住まい関係なく反応が来るのが本当に嬉しく、魅力的でした。（今もですが）

乏しい知識なりにHTMLを学んだり、テンプレサイトをあさったりほんとはインターネットにのめりこんでいたのが小学生時代でした。

中学生になると部活動や習い事で忙しくなり、携帯電話が主流となったため小学生時代に比べるとインターネットが遠ざかってしまっていたかもしれません。しかし、やっぱり「発信すること」が大好きな私は携帯電話で学年のHPを制作しました。みんなからの反響はとても良く、アルバムが活発に更新されるのを見てはウキウキしていました。

自分を発信できるツールとして、やはりインターネットが最適であると、今でも感じます。



<http://www.fumi23.com/>

当時お世話になったサイト「ふみこみゆにてい」

ペパボのロリポは有名なレンタルサーバーで私の憧れでした

。

☑ ダンスと私



みんなでひとつのものを作る喜びを学んだ。

<ダンスとの出会い>

中学3年生の頃、当時EX●LEに憧れてダンス部のある高校に入学し、入部したことがダンスとの出会いでした。始めは「かっこよく踊りたい!!」という軽い気持ちしかなかったのですが、想像以上にハードな練習に何度も挫折しかけました。

高校1年生の時にあった文化祭のオーディション（合格すれば文化祭に出れる）は練習したにも関わらず落とされ、みんなと踊れる機会を1度失ったのです。そのとき本当にダンスをやりたい理由が明確になりました。それは「みんなと踊りたい」という気持ち。先輩に頼みもう1度見ていただけるチャンスを得た私はその日まで毎日動画を見て研究し、上手な友達に踊りを見てもらったり、ほぼ毎日練習しました。その結果合格することができ、無事に文化祭に参加できたのです。あんなに悔しい思いをしたのも努力をしたのも初めての経験でした。

<本格的にダンスを学ぼうと思ったのは実は大学に入ってから・・・>

「スキルをもっとつけたい」と思ったのは実は大学に入ってからでした。（大学生のオールラウンドサークルに憧れ）ダンスを続けるか続けないか悩んだときに今所属しているダンスサークルに出会いました。とりあえずサークル体験にいったとき高校のレベルとはかけ離れたスキルをもった先輩を見て衝撃を受けたのを覚えています。「この人に習いたい！一緒に踊りたい！」と。大学のダンスサークルは高校のときとは違って自分たちでクラブを貸切、運営からネタ作りまで0から作り上げていきます。自分たちで何度も話し合っ振りを作ったり、深夜に練習したり、大学入学したての私には刺激的な毎日でした。

3年生になり、自分たちが執行の代に。今まで先輩に頼りきりだったイベント運営や、チケットのノルマ設定、新入生歓迎会のチラシ作りや、学園祭のネタ作り...4月から11月まで月に1回以上は

外部イベントや学内公演がある毎日で時間が過ぎていくのが早かったことを思い出します。違うと思ったら意志を貫くわたしも、円滑に話し合いが進むように相手の考えも受け入れるという柔軟性を身に着ける事ができた気がします。何度もぶつかって話し合っただけでイベントが成功した時の喜びは格別なものです。

そして引退前最後の公演「学園祭」の練習が一番辛く、一番学ぶ事得る事が多くありました。所属しているHIPHOPというジャンルはわたしを含めた3人以外みんな後輩で、3人で33人に教えなければいけない状態でした。一人一人スキルが違うのはもちろん、ダンスに対するモチベーションを合わせる事が一番大変でした。最初はまとまらない焦りから頭ごなしに怒ることしかできませんでした。しかし、それではうまくいかないと感じたわたしは率先して楽しい練習を重視して行うことにしました。アイコンタクトを取りながら踊ったり、見せ合いの時に「イイネ！」と思った瞬間に沸いてあげることで「チーム感」が強化されていくことを肌で感じる事ができました。

1か月で約150時間も練習をし、本番は大成功。憧れだった先輩から「カッコよかった。頑張ったな。」と一言。ほかの先輩や友達からも「泣きそうになった」と言ってもらえたり、実際に涙を流してくれた友達もいたり、、自然と自分も涙を流してしまいました。

みんなで1つのものを作り上げることは辛さのほうが大きいかもしれないけれど、その中で得られるものは辛さ以上のものであるということを心から実感しました。

現役ではないけれど、ダンスを続けています。踊る事の楽しさはもちろん、仲間と踊る楽しさを忘れたくないからです。ダンスを通してつながった人もたくさんいます。コミュニケーションツールとしてインターネットと同じくらいダンスがわたしのなかで自己表現だったりするのかもしれない。



☑ エンターテイナー=私

とにかく人に喜んでもらうことが大好きな私は「エンターテイナー」であると自負しています！！！！

<アルバイト編（焼肉屋、ステーキ屋）>

▽販促POPの制作

▽地域のお店に「ビラを置いてもらえないか」と飛び込み営業

▽ステーキ鉄板3枚持ちができる

▽お客さんに名前を覚えてもらっている

▽アルバイト同士の親睦会、送別会の企画

<サークル編>

▽Tシャツ制作



▽新入生歓迎会ビラ制作



▽先輩たちや同学年の幹部への色紙制作

勉強編

▽ハングルが読める→韓国旅行へ1年間で5回行き、電車の乗り継ぎはお任せあれ！

☑️ 終わりに

ペパボとは小学生の頃に出会い、そして就職活動を通して再会しました。
社風やロリポ、jugem以外のサービスについて小学生の頃は知りませんでした。
そしてただのファンでした。

「インターネットを通じて発信する人」のお手伝いがしたいと思えたのはペパボに出会ったからだと思います。

自分が発信する側だったからこそ、その経験をペパボで生かせると思うのです。

1週間という期限の中であまりクオリティの高いものはできなかったかもしれません。
しかし学生時代にたくさんの人と関わり、成長した過程を少しはお伝え出来たかなと思います。

「小さな巨人」

